

ちひろ美術館・東京
美術館だより

No.178

2012.8.29



図1 「ロンドン橋がおちる」 1966年

図2 夕焼けと凧あげをする子ども 1970年

枯れ草と少女 1970年

図3 夕飯を食べる家族 1970年



図4 緑の幻想 1972年

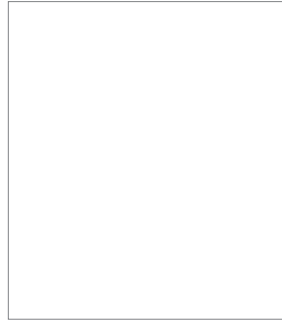


図1・図2 「トンネル」より 1989年

図3 『森のなかへ』（評論社）より 2004年

図4 (左)・図5 (右)
『ウィリーの絵』（ポプラ社）より
2000年

アンソニー・ブラウン

Anthony Browne イギリス 1946～

イギリス・シェフィールドに生まれる。リーズ美術大学でグラフィックデザインを学んだ後、マンチェスターの病院で2年間、医療関係のイラストレーションを描く。その後、グリーティングカードを描く仕事に携わる。1975年以降、子どもの本に関わるようになり、初めての絵本Through the Magic Mirrorを1976年に出版。1983年『すきですゴリラ』（あかね書房）と、1992年『どうぶつえん』（平凡社）でケイト・グリーンナウェイ賞を受賞。2000年には国際アンデルセン賞画家賞を受賞。

ちひろ美術館×上野動物

アンソニー・ブラウン展を記念し、上野動物園とコラボレーションしたイベントを予定しています。詳細は、当館ホームページをご覧ください。

Zffb,!!i i i ɤZ[Z(ɔɔb!



図6・図7・図8 「シェイプ・ゲーム」（評論社）より 2003年

4月7日(土) ちひろと香月泰男 特別対談 野見山暁治×大石芳野

「ちひろと香月泰男一母のまなごし、父のまなごし」展(3月1日～5月20日)に合わせて、画家・野見山暁治さんと、写真家・大石芳野さんの対談を開催しました。その一部をご紹介します。

ちひろと香月泰男

野見山 子どもを描く場合、愛情がテーマになると思うんだけど、この二人は愛し方が全然違うんですよ。ちひろさんの絵には、子どもの笑い声が聞こえるけれど、香月さんの絵には、それが無い。香月さんは、一人っ子で、子どもの頃、両親と離れて、厳格な祖父母に育てられているんです。暗く寂しい想いを抱えていた。ようやく結婚して、子どもができてうれしくてしょうがないところへ、戦争に取られていく。やっと得た家族の幸福をまた離されるといったとき、耐えきれなかったでしょうね。香月さんは、そういう想いで家族や子どもを見つめてきた。一方、ちひろさんは両親に慈しまれ、愛情にひたって生きてきたから、子どもへの愛情がじかに伝わってくる。愛情のあり方がまったく違うんだと思います。

大石 ちひろさんは子どもの知能や感情は大人よりも劣っているとはけっして考えず

に、子どもの奥底にあるまだ柔らかな精神に届くように、淡いトーンの色彩で独特なテクニックを駆使しながら描いています。香月さんの表現とは対照的で、それは多分、野見山さんの今のお話に起因があるのかもしれない。私は香月さんの絵にのめり込んだ時期があります。ちひろさんの『戦火のなかの子どもたち』は彼女が最期の力を振りしぼっただけに迫力があり、淡い色彩のなかに戦争の残酷さや悲しさがにじみ出て、日なたでは見えないものが表現されています。ご自身の戦争体験も交え、子どもにこそ伝えなければとの思いが感じられます。一方、ドキュメンタリー写真に携わる私は、絵との接点など考えたりしますね。



絵画と写真

野見山 絵描きは、距離を持って眺めるけれど、カメラマンは行動性を持って走っていきながら、最後の1秒でとらえるというところが違うのかもしれない。香月さんの場合、シベリアを描こうとすると、あ

らゆる状況を思い出すけれど、どこかで、それ以上近づくとのはやめにするというようなことを言っています。実際に見たものをそのまま描くのではなくて、象徴的なものとして描き出している。

大石 香月さんが描く骸骨のような人物像を見たとき、アウシュヴィッツの収容所で描かれた鉛筆画と共通するものを感じました。写真のリアリティとは異なる、1本の線が持つリアリティですね。

戦争を経験して

野見山 私はちひろさんより2つ年上なんですけど、戦争でたくさんの方が亡くなつて、自分だけ生き残ったという負の気持ちを持ってきました。香月さんは、シベリアで囚人として生きてきた自分から抜け出せないままだった。ちひろさんも負の想いを抱えていたのかもしれない。けれど、彼女は、いくら虐げられても、屈折せずに、きちんと自分のまなごしで見つめられた人だという気がします。ちひろさんの場合は、子どもの絵だけれど、これしか描けないというところが強い。どんなにやさしい絵でも、それを押し通すというのは、芯が強いからなんでしょうね。(原島恵)

7月14日(土) 海南友子講演会「映画制作を通して出会ったちひろ」

初のドキュメンタリー映画「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」の公開初日、映画館での舞台挨拶から駆けつけてくださった海南友子監督の講演会を開催しました。

ちひろの映画を手がけたきっかけ

「NHKを退職後、戦争や環境問題などのドキュメンタリーを制作していたことがきっかけで、ちひろ美術館の理事長の山田洋次さんから声をかけていただきました。ちひろの絵はもちろん知っていましたが、正直、個人的な思い入れはなかったんです。まずは美術館の記録として、生前を知るゆかりの方々との証言を集めようと、3年で延べ46名を取材しました。」

証言から浮かび上がった人間・ちひろ

「面白くなったのは、実際に取材を始めてからです。みなさん異口同音にちひろのことを「鉄を真綿でくるんだような人」とおっしゃる。ふわっと優しいのに、とにかく意志が強い。好きなものに対する気持ちを曲げない人だったんですね。ロケをする度に新しいちひろとの出会いや発見があって。取り憑かれたように取材を進め、最後は、魅力的な生き様をぜひ映像に残したいと、むしろ積極的に映画化への企画をまとめました。」

映画制作の舞台裏

「150時間の取材テープを96分の映画に仕上げる際、ちひろの強さを柱にしたのでやわらかいイメージはあまり紹介していません。終戦直後でもリボンなど可愛い装いが好きだったことや、幼い息子を膝枕で寝かせたまま朝の5時まで描き続けたこと、松本善明さんとすごく仲の良いご夫婦だったことなど……。自分らしさを大事にしている点において、ちひろがたたかった画家の著作権運動とリボンには通じるものを感じます。」

黒柳徹子といわさきちひろ

「館長の黒柳さんは、25年ほど前に、まだ当時ご存命だったちひろの妹さんほか大勢の方を取材して、本にまとめていらっしゃる。今回はそういった方々の分までお話していただきました。いつも笑顔の徹子さんが、ちひろの絵のことや、戦争への思いを語るときにはしんみりとなさって、印象深かったです。『もし敗戦がなかったら「いわさきちひろ」というアーティストは存在せず、絵が上手い近所のお母さんだったかもしれない』と。ロケでは、ちひろをイメージしたつばの広い素敵な帽子をお召しで、お顔に影が出ないように撮影するため、照明

マンが頑張りました(笑)。」

ちひろの3つの強さ

「ちひろには、3つの強さを感じます。平和を訴え続けた人間としての強さ、働く女子の大先輩としての強さ、そして芸術家としての強さ。戦後、ちひろはバツイチで、家も仕事も失うという絶望のふちから、本当にやりたいことにたどりつきます。夢に向かってあきらめずに歩んだその生き方を、3.11を経た今だからこそ、多くの方に観てもらいたい、という思いを込めて、映画を仕上げました。」



会場では、映画にもご登場の池田春子さん(編集者・写真右)や、松本由理子事務局局長も生前のちひろについて語り、参加者からは「ちひろの人生をもっと知りたかった」「編集者、臨終に立ち会った方の実話も聞けて感動的」などの感想をいただきました。(中平洋子)

ひとこと ふたこと みこと



4月5日(木)

お母さんと、妹とはじめて来ました。ちひろさんの絵を見て、小さいこのほっぺ、口、かみの毛、服の色がやさしくて、小さい動物の動きなども見えたような気がします。もっとこの絵たちを学校のみんなに知ってもらい、あたたかい気持ちになってほしいなと思います。(西東京市 渡辺彩花)

4月24日(火)

母は、ちひろさんと同じ長谷戸小の同級生。今は94歳。「道に絵が描いてあって、たどっていくとちひろさんに会えるのよ」と話していました。左手で黙々と描いていたそうです。ちひろさんがお亡くなりになったとき、母はとてもがっかりして寝込んでしまいました。今日、多くの心温かい作品に

会えて、とても幸せです。(野澤麻貴子、母は小木曾(旧姓塩尻)政子)

6月15日(金)

ちひろさんの原画は本当にすごい。胸を打つ。でも、絵本になって印刷されてもその彩があせないことに、真の価値があるように思います。(S.K.)

6月27日(水)

いわさきちひろさんの絵は、なんとなく視界に入ってはいましたが今まで強く意識することはありませんでした。先日、試写会で映画「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」を拝見し、この愛らしいきれいな絵はこんな苦勞の末に生み出されていたんだ！と衝撃を受けました。そして美術館が私の住まいのごく近くにあると知り、今回お邪魔しました。初めて目にする原

画の水彩の、まるでピースを重ね合わせてつくったとしか思えない技法、筆致に改めて感動を覚えしました。また近日中にゆっくり訪れたいと思います。ちひろさんとのめぐり合わせに感謝を込めて。

* * *

ちひろ美術館と私は同い年です。母もちひろさんの絵が大好きで、母と一緒に子どもの頃から何回も、何十回も訪れました。そして、今日、久しぶりに訪れ、やはりちひろさんの絵に心が落ち着きます。半年前に亡くなった母と、一緒に絵を見ている気持ちになりました。母がいなくてさびしさに、まだ慣れていませんが、今日、ちひろさんの絵が、私をやさしく後押ししてくれたように思います。また来ます。ありがとうございました。

美術館 日記



5月12日(土) ☀

第30回練馬こどもまつりに初参加。ちひろの水彩技法「にじみ」を体験しマグネットをつくるブースを設置した。石神井公園を吹きぬげる強風に苦戦したが、予想を大幅に超える述べ245人もの子どもたちが参加してくれた。郷土ゆかりの画家であるちひろに親しむきっかけになればうれしい。

5月23日(水) ☀

映画公開記念展初日にあわせ、館内で映画公開の記者会見を行う。海南監督、女優の中原ひとみさん、遺族の松本善明、松本猛、館長の黒柳徹子が会見に出席、多くの取材陣でにぎわった。

5月31日(木) ☀

渡米した親戚を持つご夫婦が来館。「戦後の物資援助のお礼に、ちひろカレンダーを毎年送ってい

る。三世となる親戚が、保存していた20年分のカレンダーを地元図書館に寄贈したところ、とても感動され、子どもライブラリーに飾ってくださっている」とのこと。ちひろの絵が人から人へ、海も時も越えて広がっていることに感激。

6月18日(月) ☀

教員向け特別内見会。^{チャリトープ}GTや意見交換会に加え、今回は水彩技法体験コーナーも。「低学年でもできそう」「にじみで絵を描くって想像以上に難しい！」と先生方にも好評。水彩技法体験は“出前授業”の大事な柱、学校でも随時開催中。

6月24日(日) ☀

館内ではじめて「おもちゃの広場」を開催。「広場」の石神井支部から講師の派遣と20種類以上のおもちゃの貸し出しを受け、親子で2時間、集中して遊んだ。次回10月。

6月25日(月) ☁

「芸術新潮」7月号「特集いわさきちひろ」発売日、74ページ構成の特集掲載。ちひろの人生の紹介も充実しているが、日本近代絵画史や琳派など各専門家による解説が、ちひろの絵の魅力を新しい切り口で紹介していて、読み応えあり！

7月6日(金) ☁/☔

銀座の書店・教文館でピエゾグラフィ展の飾りつけ、7/17までブックフェアと同時開催。映画公開のこの夏、各出版社の協力を得、全国の書店からフェア開催のお申込み多数！都内・近郊の他書店でも複製画展との同時開催フェアが実現。

7月14日(土) ☀

ちひろ映画公開初日。映画館では海南監督と山田洋次理事長による舞台挨拶も。夕方、館内で海南友子講演会開催(詳細4p)。

窓

映画が生んだ、新たな広がり

松本由理子(財) いわさきちひろ記念事業団事務局長

「ちひろさんの映画を作ることができればと、ずっと思っていました。ちひろさんはとっくに(38年前)に亡くなっているし、生きて動いている映像で使えるものは何もない。成り立つのか?と思いましたが、海南さんならできるのではないかと思いました」と語り始めた山田洋次さん。映画公開初日の舞台挨拶でのことだ。

海南さんの「亡くなった方の人生を、証言によって立体化するというのは、20年近くドキュメンタリーの仕事をしていた、いちばん難しかった」「150時間撮ったものを90分の映画にしました。今日が迎えられたのは奇跡です」と語る言葉を聞きながら、この1年に思いをはせた。

4年前から縁の方への取材はしてもらっていたものの、映画にすると決まったのは昨年2月。助成金の関係で完成試写会は本年3月までに行うという、制作期間1年でのスタートだった。

1ヵ月後に3.11が起き、夫とともに現地取材に入った海南さんに妊娠が判明、若い助監督の献身的な働きもあり、映画の制作はそのまま進行。仮台本第1案が届いたのは10月、第2案は出産1週間前の12月下旬だった。度重なるやり取り、山田洋次さん、松本猛さんも加わっての会議。その間、海南さんと双方の現場スタッフの頑張り、作品の追加撮影、台本直し、編集・音入れ等々、やりきったの完成だった。

映画をきっかけに生まれた、新たな広がりもうれしい。広報を担った、クレストインターナショナルの鮮やかな仕事振りもあり、どんどん実現する雑誌の大型企画。『芸術新潮』7月号は、新進気鋭の橋本麻里さんをゲストエディターに迎え、美術史の中にちひろを位置づける試みを行い、『婦人画報』7月号は、山田洋次さんと黒柳徹子さんが対談。可愛い絵の背後にある、ちひろの深い思いを、静かに語りあっている。

『MOE』9月号の、ちひろの夫・息子・孫の鼎談、スタジオジブリの広報誌『熱風』8月号での上野千鶴子のちひろ論、海南さんの本音を吐露した文章も興味深い。ぜひ、ご一読を。

次回展示予定 2012年11月14日(水)~2013年1月31日(木)

ちひろスタイル

—くらしのいろいろ—

ちひろは日々のくらしを細やかに慈しむとともに、旅に出かけたり、山荘で過ごす時間も大切にしました。子どもたちのおしゃれや草花のあしらいなどにちひろのセンスが光る作品のほか、愛用の品々も展示し、ちひろ流のくらしの楽しみ方を紹介します。



枯れ葉と赤い服の少女 1971年

〈企画展〉出久根育の絵本展 —ブラハでつむぐ幻想—

チェコの古都ブラハで暮らしながら、絵本制作を続ける出久根育。本展では、ブラチスラヴァ世界絵本原画展でグランプリを受賞した『あめふらし』、ロシアの民話『マーシャと白い鳥』などの作品を展示し、濃密で幻想的な絵本の世界を紹介します。



出久根育「マーシャと白い鳥」(偕成社)より 2005年

ちひろ美術館・東京イベント予定

<http://www.chihiro.jp/>

各イベントの予約・お問合わせは、ちひろ美術館・東京イベント係へ。TEL. 03-3995-0612 E-mail chihiro@gol.com

●ちひろ美術館・東京 たてもの探検ツアー

美術館スタッフが一緒に館内を回りながら、美術館の建物にまつわるエピソードや、隠れた見どころの数々をご案内します。

- 日 時：9月2日(日) 14:00~14:40
- 定 員：20名 要申し込み、8月2日(木)受付開始
- 参加費：無料(入館料別、高校生以下は入館料無料)

●東京開館35周年記念 内藤廣講演会「人・暮らし・建築」

ちひろ美術館を設計した建築家・内藤廣さんが、建物に込めた思いを語ります。

- 日 時：9月8日(土) 17:30~19:30
- 講 師：内藤廣(建築家)
- 定 員：60名 要申し込み、8月8日(水)受付開始
- 会 場：ちひろ美術館・東京 図書室
- 参加費：800円(入館料別、高校生以下は入館料無料)

●水彩技法ワークショップ 敬老の日のカードをつくろう!

人気の水彩技法ワークショップ。今回は敬老の日にちなみ、プレゼントに最適なカードをつくります。

- 日 時：9月9日(日) 11:00~15:00(最終受付14:30)
- 対 象：幼児から大人まで
- 参加費：200円(入館料別、高校生以下は入館料無料)
- ※参加自由、入替制、所要時間20~30分程度

●ちひろ美術館と同年!

1977年生まれの方にポストカードプレゼント

開館35周年にちなみ、9月1日(土)~9月30日(日)までの期間限定で、1977年生まれの方に特製ポストカード(非売品)をプレゼントします。入館時に、生年のわかる証明書などをご提示ください。※プレゼントはなくなり次第、終了となります。

●支援会員向け活動報告会のお知らせ

10月13日(土) 於：安曇野ちひろ美術館
11月17日(土) 於：ちひろ美術館・東京
2011年度ならびに2012年度上半期の活動報告会を、各館で開催いたします。詳細は、9月中旬にお届けする「安曇野ちひろ美術館だより No.72」にてお知らせします。

●末盛千枝子講演会「絵本を通して伝えたいこと」

国際的に活躍を続けてきた児童書編集者で、すえもりブックス代表として名作絵本を手がけてきた末盛千枝子さん。岩手県に移住ののち、震災に遭遇し、被災地の子どもたちに絵本を届ける「3.11絵本プロジェクトいわて」を立ち上げました。絵本を通じた自身の活動について語ります。

- 日 時：9月23日(日) 14:00~15:30 ○講師：末盛千枝子
- 定 員：60名 要申し込み、8月23日(木)受付開始
- 会 場：ちひろ美術館・東京 図書室
- 参加費：1000円(入館料別、高校生以下は入館料無料)

●わらべうたあそび

声を出して歌ったり、体を動かしたりしながら、親子で楽しく参加ができます。0~2歳までの乳幼児と保護者対象。

- 日 時：9月29日(土) 11:00~11:40 ○講師：服部雅子
- 定 員：15組30名 要申し込み、8月29日(水)受付開始
- 対 象：0~2歳までの乳幼児と保護者
- 参加費：無料(入館料別、高校生以下は入館料無料)

●世界のおもちゃで遊ぼう! おもちゃの広場

おもちゃコンサルタントが、優良なおもちゃの楽しみ方、遊び方をたっぷりご紹介します。親子でお気軽にご参加ください。

- 共催：おもちゃの広場 石神井支部
- 日 時：10月28日(日) 10:00~12:00
- 定 員：10組20名 要申し込み、9月28日(金)受付開始
- 対 象：3歳以上の未就学児と保護者
- 参加費：無料(入館料別、高校生以下は入館料無料)

●子どものための工芸展関連 子どもワークショップ

参加希望の方は、ちひろ美術館・東京イベント係(TEL. 03-3995-0772)までお問い合わせください。

- 「綿の糸つむぎ」講師：磯敦子(造形作家)
- 日時：11月18日(日) 時間未定 要申し込み、10月18日(木)受付開始
- 「再生紙でつくる壁飾り」講師：森友見子(造形作家)
- 日時：11月24日(土) 時間未定 要申し込み、10月24日(水)受付開始

●ギャラリートーク

毎月第1・3土曜日 14:00~ *参加自由

●松本猛ギャラリートーク

10月14日(日) 14:00~ *参加自由

●えほんのじかん

毎月第2・4土曜日

11:00~ *参加自由

CONTENTS

- 〈展示紹介〉ちひろ・子どもたちの情景 / 〈企画展〉国際アンデルセン賞受賞画家 アンソニー・ブラウン展—ゴリラが好きだ—…②③
- 〈活動報告〉ちひろと香月泰男 特別対談 野見山暁治×大石芳野/海南友子講演会「映画制作を通して出会ったちひろ」…④
- ひとことふたことみこと / 美術館日記 / 窓「映画が生んだ、新たな広がり」…⑤

美術館だより No.178 発行2012年8月29日